

第3回国際標準に関する勉強会(GAP)

開催日時:平成26年8月1日(金曜日) 14:00~17:30

開催場所:中央合同庁舎4号館12階 第1219-1221会議室

出席者 :45 事業者/団体 54 名

<議事次第>

1. 開会挨拶
2. 本日の進め方
3. 農業生産工程管理(GAP)について 農林水産省生産局技術普及課 飯野 祥行様
4. MGGのリスク管理とトレーサビリティについて 有限会社サンワアグリビジネス 本田 量規様
5. イオン農場とGLOBAL G.A.P イオンアグリ創造株式会社 川口 雅明様
6. ハラダ製茶のGAP取組事例 ハラダ製茶株式会社 田實 菜穂子様
7. GFSIグローバル・マーケット・プログラム一次産品編について 合同会社西友 徳屋 邦彦様
8. グループディスカッション
9. 事務局連絡

<議事概要>

最初に資料3を使用して農業生産工程管理(GAP)の日本における現状および国際的な流れについて生産局技術普及課の飯野様より講演をいただいた。その後、各事業者様より実際の取組についてお話しをいただいた。まず資料4を使用してマクドナルド GAP の取組およびトレーサビリティについて本田様から御講演をいただき、さらに資料5を使用してグローバル GAP 取得農場の取組について川口様から御講演をいただいた。最後に田實様より資料6を使用して JGAP およびグローバル GAP を取得している茶畑の取組について講演をいただいた。その後、資料7を使用して徳屋様から GFSI グローバル・マーケット・プログラムの構造についても御説明をいただいた。

最後に資料8を使用して事務局から提案した下記論点についてグループディスカッションを実施した。

①GAPの取組はなぜ必要か

②消費者及び事業者がGAPの観点から生産者に求めることは何か

各班のグループディスカッションにて抽出された意見は下記のとおり。(意見の詳細は別紙「FCP国際標準に関する勉強会 グループディスカッションまとめ」を参照下さい)

<グループディスカッション意見まとめ>

A班

・本来、買い手からすれば生産者は GAP の取組をするべきことと前提としていくべき。また、生産者の取組が見えるということは購買力を高め、さらに安全性の証明になる。また、あくまでも GAP は安全性を担保するものであり、クオリティーを高めるものではない。もし、地域の生産者の方々が GAP というベクトルに対して協調していくと組織化ができる。組織化をすることにより、産地の出荷規格などのバラツキがなくなり、買い手側へ産地のクオリティーに対する意識が徐々に伝えることのできる手段になるのではないかと。よって、GAP を取り組むと見えないうちに組織化が進み、一定のクオリティーが高まり、同時にリスク低減にもつながるのではないかと。組織化に関して言えば、継続的に生産できる仕組みとしてのポイントになっていくのではないかと。

・消費者側から言うと生産はフードチェーンの川上になるので、そこで問題を起こしてはならない。当然のこととして GAP を取組み、安全性を担保することにより、継続的で安全な農作物を提供できるのではないかと。

B班

・GAP の取組はなぜ必要かについて、フードチェーンの入口として下流までの安全性を確保するため。さらに、その体制について客観的な第三者認証という形で証明管理することができるため。ただし、GAP の認証取得することだけに意義があるのではなく、取り組んだ結果として安全な商品を生産できるということがポイントではないか。

・生産者側に求めることについては、安全に対する取組姿勢が欠かせず、よって GAP というのは最低限取組むべきことなのではないか。しかし GAP を導入していくためには相当の食品安全への意識改革が必要で、単に安全そうということで野菜を作るのではなく、本質的な形として GAP の取組をしていかなければ意味がないのではないか。

C班

・農業者に GAP を取組む必要があると 92.4% の消費者が答えている。その内訳のなかで食品の安全性がより高まることに必要性を感じている消費者は過半数を占めている。GAP は食品安全を担保するシステムで、その取得は数値をみても明らかである。しかし、農産物に関して言えば、日本は巨大な農産物輸入国であるという事実は見逃せない。現状、加工食品の原料は輸入され加熱等の行程を経て最終商品として消費者へ提供されているが、その他にも輸入品の中で直接口にするようなものが相当あり、それについての安全性というものに対する不安がこの数字に表れているのではないか。よって輸入されている農産品について、どのようにしたら安全性の担保がとれるのか考えていかなければならない。海外産とくに中国産と記載してあれば買い控えてしまう。商社や卸会社など輸出をしている各社が食品の安全性をどこに求めていくか、これが抜け落ちてしまうと一番大事な問題が解決されないのではないか。やはり商社・製造・卸業者が生産国へ出向いて GAP を指導するといったことをしていかなないと消費者へつながるような安全性は担保されないのではないか。

D班

・論点が明確でないため話が混乱したが、今回は国際標準についての勉強会のため輸出について考える部分と、生産者の安全な農産物の生産といった2つの視点が挙げられるのではないか。

・GAP の取組はなぜ必要かについて、作業リスクが見える化できる、高齢化している生産者の知識の確認および伝承ができるというメリットがあるのではないか。

・生産者側に求めることについては、一定レベルの安全性を求めていくものであり、事業者が求めることにより GAP の必要性が高まるのではないか。もう少し論点がクリアであればもう少し詰めたディスカッションができたと考えている。

E班

・生産者側に求めることについては、今まで過去の経験に基づいてやるべきことは実施していたが、GAP の取組によりリスクがより明確になり、さらに消費者は安全な農産物を望んでいる点からも GAP という取組を求めていくことが必要ではないか。

・GAP の取組はなぜ必要かについて、GAP を取得しなくても販売できることから、正直必要かという議論になった。よって GAP を取組む必要性としては、ブランド化・差別化・労働安全のため体系を取り込むことではないか。しかし、事業規模の小さい生産者が多く、取引先が求めている現状を考えると本当に必要かどうかかわからないという議論にもなった。

F班

・GAP の取組はなぜ必要かについて2つの意見が出た。1 点目としてフードチェーンという言葉が重要で、現在6次産業のような取組が進むなかで、フードチェーンをひとつの線にするため「見える化」が必要。見える化ということは記録をつけること、それはトレースを確認できるということで被害拡大の防止につながる。さらに取引先に説明する際にも記録が必要で GAP の取組は重要ではないか。一方で記録をつけて管理するということは生産者の皆さんの意識が高まるといった意味でも GAP の取組は必要ではないか。

・2点目としてトレースが確認できるようにすべきということがあげられる。信頼を消費者から得るためには GAP のような活動が不可欠で、どのような環境で作物が作られているかを見えるようにすることが必要。特に農業に関して消費者は関心が高く、GAP の取組によって安全性が担保されるようにするため必要ではないか。

・最後に農産物は中間加工品であると同時に最終製品であり、例えば体調の悪い人がトマトを素手で触ったことによりノロウイルスによる感染が発生するといったリスクが加工品と同じように農産物においても起こりうるということからも、GAP の観点で農業を行うことが必要ではないか。

G班

・大前提として GAP を取組むことと認証を取得することは分けて考えるべき。

・GAP を取組む理由としては、食品衛生法を遵守する必要がある、遵守するための体系だった管理基準が今までなかった。よって生産者はそれぞれ自己流で法を遵守していきようしていた。よって GAP は体系だつて管理基準を導入することができることも意義深いものではないか。

・認証について JGAP や GGAP において最も使用されているパターンは農産物の信頼性を高めるためである。例えば、多くの生産者が集まり作られたナショナルブランドのような農産物や大手小売で販売しているプライベートブランドの農産物を展開していくときに 1000 から 2000 の生産者が同じブランドで供給していく。その時に農家ごとに品質管理体制がバラバラでは事故が起こる可能性が高まり、そのブランドの信頼性を損ねてしまう。よって農産物ブランドの品質管理体制として GAP を導入していくことが重要ではないか。これが GAP の必要性だと考える。

・最後に情報として EU の場合、直接支払制度の条件として法や指針を守らなければならない、EU では多くの農家が GAP を取組んでいる側面もある。

H班

・GAP の取得に関しては生産者にとってコストがかかる。事業者から見れば GAP を取得しているほうが良く、それを推進するにはどのように説得していくべきかという意見があった。ただし、GAP を取得すると生産者側においては農場管理等について自信を持って見せることができ、事業者側からすれば管理を見ることができる。これがお互いの信頼関係を築くことになるのではないか。

・消費者に GAP を認識してもらうことは重要だと思うが、しかし、GAP で生産されたものでないとダメだということのないように正しく理解してもらうことが重要ではないか。

I班

・GAP の観点から生産者に求めることは「トレーサ」ができること、および農薬等の「法令遵守」が挙げられる。安全であつて、出荷元、作り方が見えることが必要ではないか。

・GAP の取組はなぜ必要かの論点について言い換えれば、GAP の取組はどうしたら進められるかという論点ではないかという議論になった。

・GAP は農業初心者において有用な手法だと考えられるが、しかし昔から特段問題なく農業をしていた生産者にとっては GAP の必要性が伝わっていない。よって一般の消費者にはより伝わっていないのではないか。

・アンケートの取組まない理由のなかに「メリットを感じない」「取組むメリットがない」と記載されていたが、そのメリットは何かという議論にもなった。そのなかで日本の農業の問題点があげられ、生産量が求められているため無理して農産物の収量を上げていることにより環境に負荷がかかっている。さらには安全より見た目が重要ではないかという意見もあった。

・リスクは時代によって変化するのではないか。それは現代、農産物の食べ方が変化していて、昔は生で野菜を食べることは少なく、さらに漬物も古漬けから浅漬けと食べ方が変化してきた。よって、農産物の微生物や寄生虫へのリスクが高まるのではないか。そのためには生産者も安全に対するマインドを変えないとならないのではないか。生産者の意識改革が必要。

・GAP を取組むことによって、安全だけでなく、生産量が増加する、クオリティーが高まるのであれば GAP への取組みが増えるのではないか。そのためには SQF の発想が必要ではないかという意見もあった。

配布資料

- ・ 資料1:国際標準に関する勉強会 次第
- ・ 資料2:国際標準に関する勉強会 参加名簿
- ・ 資料3:農業生産工程管理(GAP)について
- ・ 資料4:MGGのリスク管理とトレーサビリティについて
- ・ 資料5:イオン農場とGLOBAL G.A.P
- ・ 資料6:ハラダ製茶のGAP取組事例
- ・ 資料7:GFSIグローバル・マーケット・プログラム一次産品編について
- ・ 資料8:GAPに係る論点について